

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもひろばeポーポー		令和6年12月25日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用者状況に応じて職員配置が行えるようにしている。	職員の急な休みなどに対応できるよう、多めに配置するなど検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		下駄箱に名前を入れ玩具等片づける場所が分かりやすいように視覚支援にて対応している。	通路等に死角があり、接触や衝突をしないよう考慮し改善に努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		療育前後の清掃と消毒を行い、空気清浄機や加湿を行い転倒しない場所に置き、活動に支障がないようにしている。	床面が絨毯である為、絨毯を清掃できる掃除機等検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別空間が必要な場合提供できる部屋の確保している。	扉がない部屋もある為、パーテーション等を利用し個室とし利用していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		個別支援計画書・モニタリング等で利用者の情報を共有。利用者等で気になる点があれば共有・振り返りを行っている。	休みのパートさんなど共有しきれていない部分がある為、職員全体で情報共有を行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員全員で今後の改善点や解決策について話し合う機会を設け職員1人1人が意識できるようにしている。	評価表を参考にその都度、業務改善に取り組み考慮していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		常勤・非常勤・勤務年数・役職に関係なく意見が出し合えるようにしている。	職員全員が意識を持ち意見を出し全体で把握できるよう努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による評価は実施していない。	今後の課題とします。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修を行った際は、フィードバックし職員みんなて共有している。	研修の把握など行い、積極的に参加していく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		ヒヤリングシートなども使用し適切に計画書を作成している。	相談員、保護者、学校の先生と連携を取りながら行っていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員の意見を取り入れ、会議録を作成して。	同じ伝え方、支援の方向性で利用者本人が混乱しないように統一した支援していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員がいつでも確認できるようにファイリングを行っている。	支援する職員で差がある為、職員全体で取り組めるよう療育スキルを身につけていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察を記録に残し確認できるようにしている。	情報が古い物にならないよう、把握していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		関係機関連携など行い、5領域に沿った支援内容を設定している。	保護者や本人に沿った支援内容になるよう考慮し取り組んでいく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		事前に行う活動を利用者も含め決めている。	特定の職員からの意見だけではなく、全体で考え新しい活動も取り入れていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		SNSや他事業所の活動など参考にし新しい活動を取り入れている。	全員参加できる内容の物が多い為、個々での活動などの取入れも検討していく。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用者のできる、できない、あと少しでできるなど把握し計画を作成するようにしている。	多様な活動を取り入れ支援する事でできるを増やしていけるようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		グループライン等で情報共有を個々で確認できるように工夫している。	送迎時間や出勤時間など時間のずれ違いがある為、必ずしも打ち合わせができていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		情報を共有できるようにグループラインで共有を行っている。	職員によって共有が不十分な面がある為、個々で確認していく意識を高めていく必要あり。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日誌に記載し日々職員が確認できるようにしている。	見る機会を増やしパートさんも把握していくように努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、各利用者について意見を出しあい支援の仕方や方向性を検討している。	職員全体で行っているが、モニタリングを作成した際に再度確認するようにしていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		本人の発達状況や障害の多様性に対応できるよう本人の状況の把握を行うようにしている。	ガイドラインの4つの基本活動の理解を深めていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己決定できない場合は自己選択から行っていくなど、本人の状況に合わせて行っている。	本人の気持ちに尊重できるような対応を統一していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス管理責任者、管理者が参加し会議録を職員に共有できるようにしている。	担当者会議や、関係機関との集まりに参加できるよう職員を増やすなど検討していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		現在は行っていない。	今後の課題とします。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		迎える職員は、先生となるべく連携を取り情報共有を行うようにしている。	利用者の担任や学年の把握が送迎職員みんなが行えるように努める。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		該当している利用者が現在いない為行っていません。	今後の課題とします。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		関係機関連携を行いスムーズに移行できるよう会議を行っている。	会議への参加の機会を増やし、支援内容の統一を図っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			今後の課題とします。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		交流できていない。	今後の課題とします。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		情報共有を行って、職員にフィードバックしています。	参加する機会を増やしていけるように検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎の際に、家族支援を行い状況共有や課題に保護者と連携を図り記録に残している。	どの職員でも対応できるよう保護者との信頼関係を築けるよう努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		現在行えていません	今後の課題とします。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学、契約、運営規定の変更があった場合保護者に分かりやすく伝えるよう、心掛けています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		家族支援などで直近の本人の状態や保護者の意見を取り入れ個別支援計画の作成するようになっている。	引き続き、保護者との連携を図っていくよう努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者に説明し同意を得ている。	支援方法や支援内容を保護者にも分かりやすく伝えていくよう心掛けていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に家族支援や関係機関連携を行い支援にあたるような体制をとっている。	家族支援を行える職員に限られている為、誰でも対応できるよう行っていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○	現在行えていません。	今後検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	迅速かつ適切に対応するように心掛けている。事業所内にて情報共有を行う。	同じ繰り返しにならないように、職員全体で改善点の振り返りを行っている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	HPにて公開し毎月通信とだよりにて保護者に活動の様子や行事予定をお伝えしている。	通信以外にも送迎の際に保護者に写真を見せ今日の支援の写真や遊んでいる写真を見せ、事業所で何をやっているのかを身近に感じてもらえる様に、努めていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	ホームページやポータル通信への写真等個人情報への書類を元にはっきりと管理している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	家族支援や電話、関係機関連携等、情報連携はファイリングし職員も把握できるように行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	現在行えていません。	今後検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	事業所で研修や訓練を行い職員は把握している。	保護者に全て周知していない部分もある為、今後の課題とします。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	利用者、職員で訓練を行っており訓練後は振り返りを行い職員、利用者で改善に努めている。	今後避難具の使用の仕方等を消防の方に指導して頂き誰でもしようにできるように行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	てんかんがある利用者に対し、書面にて記載してもらい、従業者全員対応できるように努めている。また服薬等変更がある場合伝えてもらうようお伝えしている。	近状について共有し対応していけるよう職員全員で話す時間を確保していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	アレルギーが起こらないよう、本人の情報をヒ保護者からしっかりと聞き把握している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	事業所内にてヒヤリハットを行い、全事業所で共有し解決策を考案している。	パートさんにもノート等に記載してもらうように改善していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	1人に負担がかからないように、交互に療育する人を変える等行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	保護者に理解して頂けるよう分かりやすく説明を心掛ける。	引き続き保護者と連携内容を終始徹底していく。	